



第8回

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会

プログラム・抄録集

一歩進んだ地域包括ケア

2019年11月17日(日)

つくば国際会議場

会長 今高 國夫

(医療法人社団希望会 烏山診療所 院長)

主催 一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部
主管 日本プライマリ・ケア連合学会茨城県支部
後援 茨城県 一般社団法人茨城県医師会 一般社団法人土浦市医師会
公益社団法人茨城県歯科医師会 一般社団法人茨城県保険医協会
公益社団法人茨城県薬剤師会 公益社団法人茨城県看護協会
公益社団法人茨城県理学療法士会 公益社団法人茨城県作業療法士会
一般社団法人茨城県言語聴覚士会 一般社団法人茨城県リハビリテーション専門職協会
一般社団法人茨城県社会福祉士会 一般社団法人茨城県介護支援専門員協会
公益社団法人茨城県栄養士会 茨城県訪問看護ステーション協議会

目 次

ご挨拶	1
タイムテーブル	4
会場案内図	5
ご参加の皆さまへ	6
発表者・座長の皆さまへ	8
会長講演	10
特別講演	11
シンポジウム	14
教育講演	24
関東甲信越ポートフォリオ企画	29
ワークショップ	30
ミニレクチャー	37
ランチタイムセッション	41
キャリア café mini	43
一般演題（ポスター）	44
実行委員会	61
ご協力団体一覧	62

ご挨拶

一般社団法人 茨城県医師会 会長 諸岡 信裕



日本プライマリ・ケア連合学会地方会開催にあたり

第 8 回日本プライマリ・ケア連合学会地方会が、このつくば市で開催されるに当たり、茨城県医師会を代表して、一言歓迎のご挨拶を申し上げます。

この、つくば市は、皆様ご存知のように、茨城県でも比較的新しい都市であり、筑波山のふもとに位置する、科学先進都市として、日本におけるロケット工学の中心をなす JAXA や世界初のサイボーグ型ロボット「HAL」を生み出した地域でもあります。

現在、少子高齢化の進展のもと、人生 100 年時代の根幹を担うのは、かかりつけ医であり、いわゆるプライマリ・ケアの推進と思います。我が国の人口は、2010 年の 1.28 億人をピークに、2030 年には 1.16 億人、2060 年には 0.86 億人に減少します。その間、生産人口は減少の一途を辿りますが、逆に 65 歳以上の高齢化率は、25%から 40%へと大幅に増加致します。このように、医療においては、戦後生まれ団塊の世代が全員後期高齢者になる 2025 年を迎えて、医療と介護の需要が最大になり、医療の機能に見合った資源の効率的かつ効果的な配置が必要になります。

現在、急性期から慢性期までの患者に見合った病床で、状態にふさわしい、より良質な医療サービスを受けられるような体制を作るため、地域医療構想がスタートしました。かかりつけ医は、日常的な医学管理と重症化予防、専門医療機関との連携、在宅医療支援と介護の連携等を行う、いわゆる専門職であります。それは、とりもなおさず「プライマリ・ケア」そのものです。

これから、日本プライマリ・ケア連合学会が始まりますが、研修や研究の成果が、これからの患者に対する医療の支援や生活支援、さらに健康支援や疾病予防などに生かすことができれば、幸いと考えます。

この会が、実りのある会になる事を期待し、挨拶と致します。

ご挨拶

日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック支部長
東京大学大学院 医学系研究科 医学教育国際研究センター 講師 大西 弘高



このたびは、第8回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会の開催、おめでとうございます。ご参加いただいた皆さまにおかれましては、ブロック支部地方会を盛り立てていただき、ありがとうございます。また、開催のお骨折りをいただいた会長の今高國夫先生、実行委員長の横谷省治先生を始め、茨城県支部の皆さまには改めて御礼申し上げます。

今回の地方会では「一歩進んだ地域包括ケア」と題し、様々な企画が組まれております。地域包括ケアにおいては、総合診療医、家庭医が重要な役割を果たすことが期待されておりますが、それぞれの地域での成功事例を積み重ねることが、将来の地域包括ケアの改善に役立つと信じております。

折しも、日本プライマリ・ケア連合学会は、新・家庭医療専門医制度、国際基準に則った世界家庭医会議（WONCA）による外部評価受審など、大きな改革の節目にあります。学会全体の舵取りも難しい時期にはありますが、関東甲信越ブロックでの研鑽、議論を通じて、ブロック支部の結束を高め、日本プライマリ・ケア連合学会が日本の地域包括ケアの改善に資することができるよう、強く願っております。

ご挨拶

第8回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会 会長
医療法人社団希望会 烏山診療所 院長 今高 國夫



テーマ：一歩進んだ地域包括ケア

第8回関東甲信越ブロック地方会をつくば研究学園都市で開催し、主管できますことを誠に光栄に存じます。テーマを「一歩進んだ地域包括ケア」としました。現在国の重点施策の一つである「地域包括ケア」を地域でどうすすめるのか。行政、医師会、各職能団体の取り組みが強化されつつあります。「一歩進んだ」をつけましたが何が「一歩」なのか、各位の認識、問題意識、実践、組織的取り組みを披歴し、学び合い、共有し、明日の地域での取り組みに役立てられれば幸甚です。企画の中で茨城県行政の先進的施策も例示していただきます。実は関連して、私が平成24年の日本プライマリ・ケア連合学会第3回学術大会において、「高齢者以外の地域ケアをどうすすめるか」の演題で、茨城県行政の協力を得て発表したところ、地域ケアネットワーク賞をいただいた経緯もございます。

この地方会には、是非とも常日頃、現に地域医療の現場でプライマリ・ケアを支えていらっしゃる医師、多職種の方々に多数参加いただき、連携、連帯を深めていただけたらと思います。

今回の企画・運営はすべて実行委員長の横谷 省治教授を中心とした実行委員の方のご尽力によるものです。そしてご支援ご協力いただいた団体・個人の方々に本当に感謝いたします。おかげさまで、内容の非常に濃いものになりました。連合学会が当面する総合診療医の教育の課題、多職種協働体制の整備、日本医療を取り巻く状況や展望などに役立つ特別講演3題に、教育講演4題、シンポジウム3題、ワークショップ、一般演題、それに研修の場となる企画が多数あり、盛沢山用意することができました。参加された多くの皆さんにとって、明日の診療・お働きに役立つ実り多き日になりますように願っています。